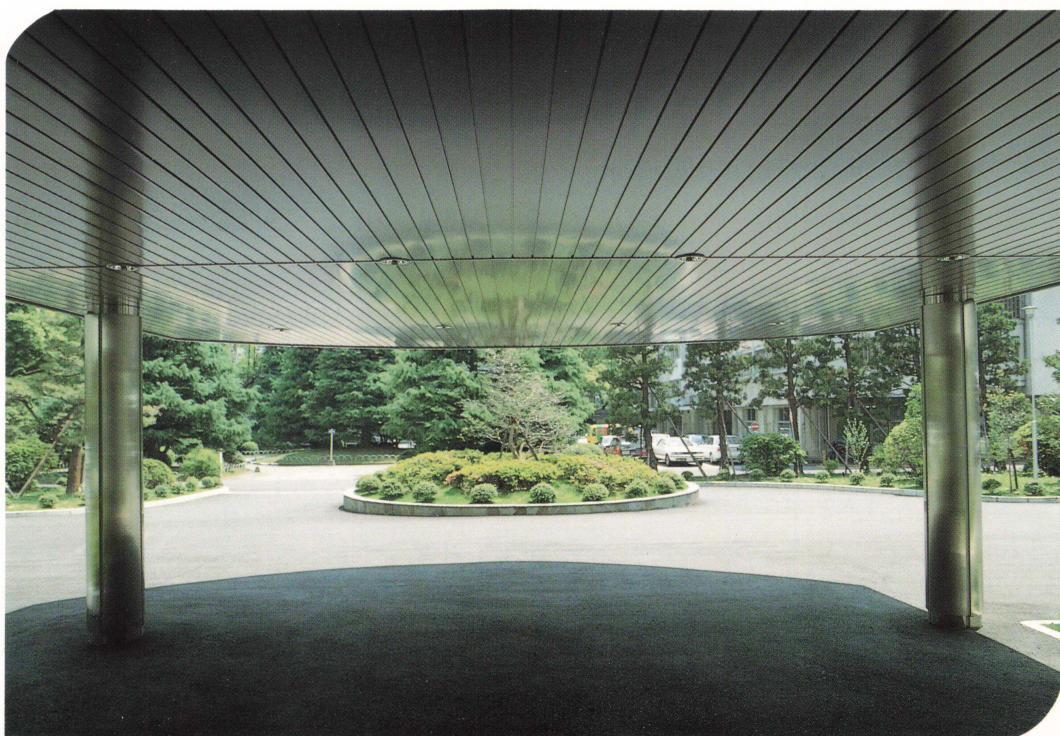


大阪医科大学学報

第25号 平成7年7月



総合研究棟エントランス

◆目

学長就任に当たって	2
法人	3
人事 { 採用、退職、昇任・異動、 休職・復職、委嘱・解職、 海外渡航 (留学、帰学、出張) }	3~5
表彰	5
平成6年度収支決算	7
平成7年度科学研究費補助金交付内定一覧	9

◆次

海外出張記	12
医学の散歩道	13
会議・行事予定	15
教室紹介	17
平成6年度主なる事業報告	18
附属病院	19

学長就任に当たって

学 長 藤 本 守



亥年の平成7年は阪神大震災で明け、半年経過した昨今は、国際的には急速な円高、国内ではオウム真理教を巡るニュースなどで満ち、困難かつ多様な年を象徴している。この中にあって私は、6月1日付けで本学第六代学長に就任しました。

本学の前身である大阪高等医学専門学校は、昭和の幕開けと共に開校、戦後に大阪医科大学に昇格し、近年には宿願の総合研究棟と本館・図書館の建築が竣工した。我々は今や大学造りの新段階に入ったと考えている。本来、大学は創造性に富む科学の中核であり、これからの医科大学の使命は、21

世紀の高齢化・福祉重視社会に向かって、先進医療・医育の実をあげねばならない。そのために、医学・医療の情報化、設備の高度化、看護・福祉教育の充実、医育の構成の多様化等に対応して、時代を先取りした卓越せる知的センターを目指すべきである。

文部省は先に「大学設置基準の大綱化に伴う自己点検・自己評価」を大学に求め、本学もそれに取り組んでいる。我々の創学者達が残した「懸命不動」、「執学医成」というモットーを堅持しつつ、「私学の新時代」を創りあげるのが私の念願である。単に今までの遅れているところを取り戻すのみでなく、人々の和を中心に総力を結集して、他学にない独自性を育て、他をリードする人材を育成すべきだと考える。まずは、経済基盤の確立が急務であり、大学構成員のそれぞれが働きやすい環境を整えるために、出来ることから必要な措置を実行して行きたい。

なお、在任期間中に本学は創立70周年を迎えるが、私はその歴史を記録に残すつもりである。私学として本学の新時代を築くために、本学の過去の伝統を基礎として、広い視野から未来を見据えたい。今や、構成員各位が、大学が我々に何をしてくれるかを考える前に、我々が大学の為になすべきか、何が出来るかを熟慮して行動し、かけがえない次の世代の為に、十分に力を発揮して欲しいと願っている。私も出来る限り努力を惜しまずに行動するが、各位のご理解とご協力を期待したい。

プロフィール

昭和6年生れ (63歳)	
昭和30年3月	京都府立医科大学卒業
昭和36年9月	フルブライト留学生として 米国コーネル大学に留学
昭和38年9月	
昭和39年5月	京都府立医科大学講師 (生理学)
昭和42年1月	岐阜大学医学部助教授 (生理学)
昭和48年4月	本学教授 (生理学Ⅱ)
平成2年4月	図書館長就任 (平成7年5月31日迄)
平成7年6月	学長就任

松本秀雄前学長

退任記念特別講演会

本年5月末日に退任されるまでの2期6年に亘り学長として本学の発展に寄与されました松本前学長の特別講演会が下記のとおり開催されました。

文化人類学の観点から、松本先生は氏のライフワークともいえる日本民族のルーツについて、ロシアバイカル湖周辺の調査内容をまとめたスライドを交えながら熱弁を振われ、会場の多くの聴衆が熱心に聞き入っていました。

記

1. 日時 平成7年5月30日(火)
午後4時30分～午後5時30分
1. 場所 臨床第1講堂
1. 演題 『ヒト免疫グロブリンの遺伝標識に基づいた日本民族の源流』について



講演後学長秘書より花束贈呈

人事

法人

理事退任	松本 秀雄	5.31
評議員		
理事就任	藤本 守	6.1
評議員就任	清金 公裕	〃

学長

退任	松本 秀雄	5.31
就任	藤本 守	6.1

名誉教授称号授与

松本 秀雄 (前学長)	6.1
-------------	-----

〔採用〕

助手	米林 功二 (皮膚科学)	5.16
〃	田本 重美 (内科学Ⅰ)	6.1
〃	奥田 準二 (〃)	6.16
〃	山崎 博樹 (皮膚科学)	〃
〃	岩本 伸二 (一般・消化器 外科)	〃
技術員	大槻 好美 (病院輸血室)	〃
教授	森 秀麿 (麻酔科学)	7.1
助手	茶谷 薫 (解剖学Ⅰ)	〃
〃	喜多野 郁夫 (生理学Ⅱ)	〃
〃	瀧内比呂也 (内科学Ⅱ)	〃
〃	中川 薫 (〃)	〃
〃	福嶋謙太郎 (神経精神医学)	〃
〃	岡本 順子 (I C U)	〃
〃	北川 友朗 (病院)	〃
事務員	芦田 恵美 (薬理学)	7.16
看護婦	林 美加子 (病院看護部)	〃
看護事務員	東森千登勢 (〃)	〃

〔退職〕

助手	高田 淳 (内科学Ⅰ)	5.31
講師	水谷 均 (一般・消化器 外科)	6.15
助手	網岡 勝見 (〃)	〃
〃	岡崎 審 (産婦人科学)	〃
看護婦	大西 敦子 (病院看護部)	〃
看護事務員	池内 美紀 (〃)	6.27
学内講師	上野 浩 (病理学Ⅱ)	6.30
助手	中島 周三 (内科学Ⅱ)	〃
〃	霜野 良一 (〃)	〃
〃	中尾 圭一 (I C U)	〃
〃	小林 正直 (病院)	〃
事務員	青木 満子 (病院事務部 用度課)	〃
〃	中野 紀子 (〃)	〃
技術員	大村由美子 (病院眼科)	〃
看護婦	伊藤 由理 (病院看護部)	〃
〃	尾島トモ子 (〃)	〃
〃	塚本 麻里 (〃)	〃
〃	吉田 由美 (〃)	〃
〃	菱田 珠江 (〃)	〃
〃	松下 直美 (〃)	〃
〃	一丸 淳子 (〃)	〃
〃	橋本 貴子 (〃)	〃
〃	水田 香織 (〃)	〃
〃	寺内 澄子 (〃)	〃
寮母	西村 榮 (看護専門学校)	〃

〔昇任・異動〕

昇任

皮膚科学 助教授	草壁 秀成 (講師)	6.1
医化学 講	矢野 貴人 (助手)	〃
皮膚科学 講	酒谷 省子 (〃)	〃
内科学Ⅱ 助教授	竹田 喜信 (講師)	6.16
一般・消化器 外科 助教授	磯崎 博司 (〃)	7.16
病理学Ⅰ 講	浦野 透 (助手)	〃
内科学Ⅱ 講	浅田 修二 (学内講師)	〃
〃	多田 秀樹 (〃)	〃
一般・消化器 外科 講	森田 眞照 (〃)	〃

異動

教養部 課長補佐の 兼務を解く	成松 正治 (教務課長代理 兼教養部課長補佐)	7.16
会計課長代理 経理課長代理兼務	楠 善行 (医事第一課長代理)	〃
庶務課長補佐	門田 雅人 (教務課長補佐)	〃
庶務課長補佐	小篠 明 (会計課長補佐)	〃
教養部課長補佐	友永 孝則 (庶務課長補佐)	〃
教務課長補佐	蔵本 勝彦 (医事第一課長補佐)	〃
医事第一課長補佐	桐山 賢良 (医事第二課長補佐)	〃
医事第一課長補佐	出坂 秀雄 (庶務課長補佐)	〃
医事第二課長補佐	伊賀 敏勝 (経理課長補佐)	〃
経理課主任	福田 謙二 (会計課主任)	〃
庶務課事務員	小林 洋樹 (医事第一課事務員)	〃
医事第一課事務員	丹羽 俊夫 (教務課事務員)	〃

〔委嘱・解嘱〕

委嘱

中央手術部長

教授	岡島 邦雄 (一般・消化器 外科)	4.1
嘱託(教授)	溝井 泰彦 (前法医学教授)	〃

図書館長

教授	清金 公裕 (皮膚科学)	6.1
----	--------------	-----

学内講師

助手	徳田 正邦 (小児科学)	5.16
〃	中島 幹雄 (整形外科)	6.1
〃	植田 政嗣 (産婦人科学)	〃
〃	岡本 吉明 (〃)	〃

助 手	東川 雅彦 (耳鼻咽喉科学)	6.16
〃	齋藤 治 (内科学Ⅱ)	7.16
〃	島本 史夫 (〃)	〃
〃	梁 壽男 (一般・消化器 外科)	〃

生理学Ⅱ講座担当教授選考委員会委員

教授	今井 雄介 (生理学Ⅰ)	5.24
〃	鏡山 博行 (医化学)	〃
〃	宮崎 瑞夫 (薬理学)	〃
〃	清金 公裕 (皮膚科学)	〃
助 教授	東 克 (生物学)	〃
〃	福田 市藏 (内科学Ⅰ)	〃
講 師	吉田 秀世 (生理学Ⅰ)	〃
〃	麻田 邦夫 (胸部外科学)	〃
助 手	森 禎章 (生理学Ⅱ)	〃
〃	前島 精治 (皮膚科学)	〃

同上委員長

教授	今井 雄介 (生理学Ⅰ)	6.7
----	--------------	-----

衛生委員会委員

助 手	木村 文治 (内科学Ⅰ)	6.18
事務員	小林 悦子 (財務部経理課)	〃
技術主任	河内 明 (麻酔科)	〃
〃	小野 美鈴 (病院リハビリ テーションセンター)	〃
看護婦主任	牟禮 洋子 (病院看護部)	〃

保健管理室(仮称)設置準備委員会委員

学生部学生生活 委員会委員長	千原精志郎 (心理学)	7.5
教授	石原 正 (内科学Ⅰ)	〃
主任健康管理 講 師	竹田 喜信 (内科学Ⅱ)	〃
看護専門学校医 助 教授	北浦 泰 (内科学Ⅲ)	〃
大阪医科大学 校 講 師	坪倉 省吾 (産婦人科学)	〃
看護専門学校医 講 師	橋口 直栄 (総務部庶務課)	〃
庶務課長	平野しみず (〃)	〃
庶務課 看護婦主任		

解嘱

図書館長

教授	藤本 守 (生理学Ⅱ)	5.31
----	-------------	------

〔休職・復職〕

休職

用 務 員	多富 啓子 (実験動物センター)	5.27
-------	------------------	------

〔海外渡航〕

永田 裕人 (整形外科学助手)
オランダ (アムステルダム) 5.5~5.11
植林 勇 (放射線医学教授)
末吉 公三 (〃 助教授)
松井 律夫 (〃 講師)
辰 吉光 (〃 助手)
中国 (北京) 5.18~5.23
時松 敬明 (物理学助手)
カナダ (ビクトリア) 5.19~5.27
浮村 聡 (内科学Ⅲ助手)
スイス (ジュネーブ) 5.19~5.28
河村慧四郎 (内科学Ⅲ教授)
出口 寛文 (〃 講師)
アメリカ (アラバマ) 5.19~5.29
太田 富雄 (脳神経外科学教授)
アメリカ (シカゴ) 6.8~6.15
植林 勇 (放射線医学教授)
松井 律夫 (〃 講師)
アメリカ (ミネアポリス) 6.10~6.18
赤尾 幸博 (解剖学Ⅰ助教授)
アメリカ (ワシントンDC) 6.12~6.24
玉井 浩 (小児科学講師)
中国 (北京) 6.18~6.25
寺井 陽彦 (口腔外科学講師)
ハンガリー (ブタペスト) 6.27~7.4
阿部 宗昭 (整形外科学助教授)
フィンランド (ヘルシンキ) 6.27~7.9
中西 豊文 (病態検査学学内講師)
スペイン (バルセロナ市) 7.8~7.15

平成7年度永年(20年) 勤続表彰

平成7年度の永年(20年)勤続者表彰式が、6月2日(金)午前10時より、総合研究棟12階第2会議室に於いて執り行われました。表彰式には、31名(欠席4名)の教職員の方々をはじめ理事長、学長、病院長他関係者が出席され、宮崎理事長より、一人一人に表彰状と記念品が手渡されました。

最後に理事長よりお祝の言葉が述べられ、これをもって表彰式は終了しました。

本年度の表彰者は以下の通りです。

浅井 一視 (生物学・講師)
東 郁郎 (眼科学・教授)
井部やす子 (病院看護部・看護補助員)
今井 雄介 (生理学Ⅰ・教授)

江口 幸恵 (病院看護部・看護婦)
太田 富雄 (脳神経外科学・教授)
大野 裕美 (病院中央検査部・主任)
小野村敏信 (整形外科学・教授)
菊岡めぐみ (病院看護部・看護婦長)
喜多あやめ (病院事務部医事第1課・事務員)
桑原美代子 (〃 〃)
小林 悦子 (財務部会計課・事務員)
権藤 眞治 (病院用度課・課長補佐)
斉藤 昭子 (病院看護部・看護助手)
澤 ふみ子 (眼科・技術員)
島田 豊 (病院事務部栄養給食課・主任)
傍島 悦子 (病院薬剤部・主任)
高淵 雅廣 (機器共同利用センター・学内講師)
田中 孝生 (内科学Ⅲ・講師)
多富 啓子 (実験動物センター・用務員)
田村美由紀 (病院事務部医事第2課・主任)
辻 久志 (放射線科・主任)
長谷川美登里 (病院中央検査部・技術員)
濱田かほる (病院事務部医事第2課・事務員)
林 美津子 (病院事務部用度課・用務員)
前田 恒子 (病院中央検査部・事務員)
松崎美津代 (病院事務部医事第1課・主任)
松本 英和 (教養部・事務員)
美濃 眞 (小児科学・教授)
村井 幸子 (病院看護部・看護事務員)
村岡千恵子 (〃 〃)
山田登茂子 (病院事務部栄養給食課・主任)
山中 正道 (病院事務部管理課・主任)
吉川 満三 (病院事務部栄養給食課・課長補佐)
吉野富美子 (機器共同利用センター・技術補助員)

(50音順) 以上35名



当日出席した表彰者一同

永年勤続表彰をうけて

看護部看護婦長 菊岡 めぐみ

この度、永年（20年）勤続表彰をいただき大変うれしく思うと共に、今後の責任の重さを強く感じています。

看護部長をはじめ看護部の方々や大学及び病院関係の皆様方による御指導と、温かい思いやりのお陰で、この日を迎えられる事を心より感謝致しております。

振り返ってみますととても短いような気がしますが、大変充実した20年間だったと思います。これからも育てていただいた良い環境を大切に、その中で成長していきたいと思ひます。

今後も婦長として大阪医科大学病院での日々の看護業務に携わる中で初心を忘れずに、患者中心の看護を基盤とし、高度な医療を提供出来るよう常に前向きに取り組みたいと思ひます。更に、一年でも長く職務を遂行出来るように、自ら健康に留意し、頑張りたいと思ひます。

病院事務部栄養給食課課長補佐

吉川 満 三

この度34名の御同輩とともに、永年勤続の表彰をして頂き、万感胸にせまるものがあります。そして「あ～20年経ったんだあ」と感じると同時に、「あっ」と言う間の20年であった様にも思ひます。

いまふり返ってみればいろいろな出来事がありました。無事に現在を迎える事が出来たのも諸先輩方々をはじめ、同僚の皆様温かい御指導のおかげだと心から感謝しております。

私事ですが、人生の良きパートナーと職場で出会うことができ、3人の子供達にも恵まれ、家庭では夫として、また、父親としての生活を十分に楽しんでます。

家庭を大切にするのも、また好きな仕事が続けられるのも幸にして栄養士としての仕事柄、患者さんへの食事はもちろんのこと、日頃から自分の食事の栄養バランスには少なからず気を付けてきたこともあり日々健康であったからだ、実感しています。

この度の永年勤続20年の表彰を節目として、今後も更に精進し頑張っていきたいと思ひます。

大阪医科大学俳句会（五／六月）

水伯に先づ一杯を山女魚汁	塚本 務人
大なまづサハリンに現るニュースかな	今井 雄介
山門に百円なりとミニトマト	古川 洋子
役を終へまだ役者なりビール酌む	中川 一成
憂国の談義そこそこ蚩狩	梶野 興三
ピアスして少女大人に蛇の衣	梶野香代子
卯の花や衆頼み入る露天風呂	塚本 妙子
鮎の骨抜いて白紙にしたい過去	奥田 筆子
煙草も酒も素直に愛す聖五月	吉田 孝江
うぐひすや雀の声もまじりあて	宮崎 真紀
俳句会俳句より好し柏餅	椿尾 和美
夏を吊る広告発車間際かな	山崎 隆司

平成6年度・収支決算

資金収支決算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科 目	平成6年度 決算額	平成6年度 予算額	増・減(△)	科 目	平成6年度 決算額	平成6年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金収入	2,434,321	2,399,004	35,317	人件費支出	11,140,353	11,153,960	△13,607
手数料収入	57,678	58,073	△395	教育研究経費支出	10,828,289	10,804,058	24,231
医療収入	19,168,811	19,304,189	△ 135,378	管理経費支出	1,019,059	941,197	77,862
寄付金収入	310,826	200,000	110,826	借入金等利息支出	174,948	173,743	1,205
補助金収入	2,070,403	2,041,889	28,514	借入金等返済支出	1,407,073	1,383,276	23,797
資産運用収入	440,742	470,323	△ 29,581	施設関係支出	1,329,614	1,330,068	△454
事業収入	283,578	302,555	△ 18,977	設備関係支出	1,102,556	1,334,276	△ 231,720
雑収入	303,572	256,059	47,513	資産運用支出	188,291	250,870	△ 62,579
借入金等収入	1,220,000	1,220,000	0	その他の支出	2,475,650	2,586,132	△ 110,482
前受金収入	1,269,739	1,250,675	19,064	予備費		300,000	△ 300,000
その他収入	4,158,536	4,109,379	49,157	資金支出調整勘定	△ 2,330,737	△ 2,483,201	152,464
資金収入調整勘定	△ 4,968,267	△ 4,777,635	△ 190,632	次年度繰越支払資金	4,911,656	4,624,889	286,767
前年度繰越支払資金	5,496,813	5,564,757	△ 67,944				
収入の部合計	32,246,752	32,399,268	△ 152,516	支出の部合計	32,246,752	32,399,268	△ 152,516

消費収支決算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	平成6年度 決算額	平成6年度 予算額	増・減(△)	科 目	平成6年度 決算額	平成6年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金	2,434,321	2,399,004	35,317	人件費	11,507,836	11,482,074	25,762
手数料	57,678	58,073	△395	教育研究経費	12,051,275	12,063,984	△ 12,709
医療収入	19,168,811	19,304,189	△ 135,378	管理経費	1,123,858	1,025,139	98,719
寄付金	337,471	232,600	104,871	借入金等利息	174,948	173,743	1,205
補助金	2,070,403	2,041,889	28,514	資産処分差額	20,227	18,304	1,923
資産運用収入	440,742	470,323	△ 29,581	徴収不能額	2,574	3,500	△926
事業収入	283,578	302,555	△ 18,977	予備費		300,000	△ 300,000
雑収入	303,572	256,059	47,513	消費支出の部合計	24,880,718	25,066,744	△ 186,026
帰属収入合計	25,096,576	25,064,692	31,884				
基本金組入額合計	△ 2,440,267	△ 2,770,454	330,187				
消費収入の部合計	22,656,309	22,294,238	362,071	当年度消費支出超過額	2,224,409	2,772,506	

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で決算額に差異のある科目については下記の理由による。

- 「寄付金」には、資金収支決算上の寄付金のほかに、消費収支決算では現物寄付金が計上されている。
- 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支決算では退職金支出額が計上されるのに対し、消費収支決算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
- 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支決算上の支払経費のほかに、消費収支決算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

平成6年度決算について

平成6年度収支決算は、本年5月29日開催の理事会において確定され、5月31日評議員会に報告了承されました。

<決算の概要>

平成6年度予算においては、前年度からの継続工事である本館・図書館建築工事の平成6年度支出及びその関連整備費他研究装置、大型機器等整備のための支出増と診療報酬改定に伴う医療収入の増加を計上しました。

本館・図書館建築工事も完了し諸施設設備の整備は予算額内の決算となりました。(事業内容は平成6年度主なる事業報告18ページ参照)医療収入は予算に対し約1億3,500万円減少しましたが、前年度実績対比では医療費の改定があったこともあり7億2,100万円(3.9%)の増加となりました。帰属収入から消費支出を差し引いた基本金組入れ前の収支差額は約2億1,500万円の収入超過となっておりますが、この収支差額は平成3年度の12億400万円以降毎年減少しております。これは施設設備取得に必要な財源が低減していることとなります。

消費収支決算について主な項目を予算との対比で述べます。

<主な収入の状況>

『学生生徒納付金』は、教育充実費の分割納入者の減少等により、35,317千円の増収ですが、前年度決算額とほぼ同額です。

『医療収入』は、予算に対し外来収入が97,223千円、入院収入が35,670千円と共に減少し、予算額に対し医療収入全体では135,378千円の収入減となりました。『補助金』は、経常費補助金が、13,548千円の増加となりました。特別補助が増加したこととなります。なお臨床研修費補助金が交付基準の変更により35,063千円の大幅増となりました。

『その他』、奨学寄付金、退職金財団交付金等の増加の反面、預金利率低下等に伴う資産運用収入の減少があります。

<主な支出の状況>

『人件費』は25,762千円増とほぼ予算どりの執行状況となりました。前年度の決算比較では592,030千円増、比率では5.42%増となっております。(昨年度の増加は484,081千円4.82%)

なお、帰属収入に占める人件費の割合は45.85%となり昨年度と比べて1.25%増となりました。

『教育研究経費』は、予算に対し12,709千円減少しました。医療材料費、修繕費、本館・図書館棟関係消耗品費、用品費で増加しましたが光熱水費、委託費で減少しました。医療診療収入に対する医療材料費の比率は42.8%で前年と比べて1.3%の減少となっております。

『管理経費』は、福利厚生費(診療費、阪神淡路大震災災害見舞金)、収益事業にたいする法人税の支出等で増加しました。

<今後の課題>

冒頭で述べましたが低減傾向にある帰属収支差額の改善がポイントであると考えられます。本決算では帰属収入は前年度決算比2.51%増ですが、一方消費支出の増加率は4.23%となりました。帰属収入と消費支出の収支差額は、収入の0.86%となり、経営安定に必要とされる5%以上の目標に達しませんでした。(前年度実績は、2.5%)

今後の財政基盤の安定を計るため収入の増加と経費節減に一層の協力をお願いします。

(財務部長 池田 良正)

お詫びと訂正

前回発行の第24号に一部誤りがありましたのでここにお詫びし、訂正いたします。

P23 平成7年度収支予算について

註：「消費収入」→「消費支出」

平成7年度 科学研究費補助金交付について

本年度は本学より163件の申請があり、その内50件、総額5,440万円の内定をうけました。尚昨年度は39件、4,330万円でした。

平成7年度 科学研究費補助金交付内定一覧

(単位千円)

研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内 定 額
一般(A)	低温乳酸リング液灌流による選択的脳冷却の実験的研究	脳神経外科学教授	太田 富雄	2,900
一般(B)	色素性乾皮症の神経症状と分子遺伝学的異常	小児科講師	玉井 浩	1,000
〃	脳室腹腔短絡術時の流量調節バルブに関する実験的および臨床的研究	脳神経外科学講師	三宅 裕治	800
〃	ピリドキサル酵素的触媒作用発現機構の解明をめざして	医化学教授	鏡山 博行	5,100
一般(C)	単離大腸粘液細胞培養系を用いた粘液生成の生理的役割とその病態に関する検討	第2内科講師	島本 史夫	700
〃	肺癌診断におけるコンピューテッド・ラジオグラフィの有用性の研究	放射線医学講師	清水 雅史	500
〃	肝阻血、肺血症による肝障害発生に関する研究	一般・消化器外科学助教授	磯崎 博司	300
〃	飼料の硬度がラット顎骨の成長発育におよぼす影響に関する実験的研究	口腔外科学教授	島原 政司	200
〃	PI アンカー型補体制御蛋白の癌化に伴う欠失の機序についての研究	病態検査学内講師	畑中 道代	500
〃	Caチャンネルを有する各種培養神経細胞に対するALS血清IgGの細胞傷害性	第1内科助手	木村 文治	800
〃	APOC-II 遺伝子と晩期発症型アルツハイマー病との相関研究	神経精神医学助手	野々村安啓	800
〃	双極性感情障害における連鎖研究	神経精神医学助手	稲山 靖弘	800
〃	造血管腫瘍における転座関連遺伝子の発癌への関与	第1解剖学助教授	赤尾 幸博	400
〃	女性生殖器におけるアポトーシス —bcl-2蛋白とホルモンレセプターについて—	第1解剖学教授	大槻 勝紀	700
〃	芳香族アミノ酸アミノ基転移酵素の基質認識機構	医化学教授	林 秀行	800
〃	脳梁線維切断後の交連線維の再構築	第1解剖学教授	島田 真久	1,500
〃	フルクトース2,6二磷酸合成酵素の脳型アイソザイムと脳の解糖系の調節機構	化学講師	渡邊 房男	1,200
〃	アルコールによる肝障害発生機序の解明	化学教授	古谷 榮助	1,200
〃	高齢者の地域ケアに関する疫学的研究 —老人保健施設の役割とその利用者の追跡調査—	衛生学・公衆衛生学助	渡辺 美鈴	700
〃	凝固第13因子遺伝子領域における組換えホットスポットの解析	法医学教授	鈴木 広一	1,300
〃	腸粘液のバリアー機構破綻(透過性亢進、蛋白漏出等)に関する腸上皮細胞を用いた研究	第2内科講師	齊藤 治	700

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額
一般 (C)	心筋症、心筋炎の心筋 in situ におけるウイルス核酸発現様式の分子病理学的研究	第 3 内 科 学 師	出口 寛文	1,900
〃	心筋症における左室拡張障害の成因：透過電顕および走査電顕による免疫分子化学	第 3 内 科 学 手	林 哲也	1,000
〃	老化促進マウスの心臓刺激伝導系におけるアポトーシスに関する研究	第 3 内 科 学 手	寺崎 文生	1,800
〃	新しい起立性調節障害診断基準の作製	小 児 科 学 師	田中 英高	1,500
〃	脚延長における筋機能の実験的研究	整 形 外 科 学 授	阿部 宗昭	1,200
〃	骨に対する物理的刺激（情報）は細胞レベルで如何に修飾・変換され受容・伝達されるか	リハビリテーションセンター 助 手	山口 淳	1,500
〃	国内外における変異 LH の頻度とその分布の検討	産 婦 人 科 学 師	奥田喜代司	700
〃	乳癌高転移モデル動物の作製と転移抑制物質の探索	実験動物センター 講 師	森本 純司	1,300
一般 (C) 萌芽的研究	C 型肝炎患者血清の試験管内補体活性化とクリオグロブリン形成の機構に関する研究	病 態 検 査 学 授	清水 章	600
〃	Artificial Matrix Flap に関する実験的研究	形 成 外 科 学 授	田中 嘉雄	1,400
奨励 (A)	輸精管上皮細胞におけるイオン輸送の研究	第 1 生 理 学 手	相馬 義郎	1,000
〃	培養近位尿管細胞の内向き整流性K ⁺ チャンネルの細胞内 ATP による調節機構	第 1 生 理 学 手	森 禎章	900
〃	心筋症病態形成に果たすキマーゼの役割の解析と薬物治療	薬 理 学 師	塩田 直孝	1,000
〃	大腸上皮性悪性腫瘍における Epstein-Barr Virus の感染性について	第 2 病 理 学 手	伊藤 裕啓	1,000
〃	実験的腎機能低下ラットに対する弗化物投与による骨組織および生体内微量元素への影響	衛生学・公衆衛生学 助 手	土手友太郎	1,000
〃	生体リズムと短周期の睡眠覚醒リズムの関係	神 経 精 神 医 学 手	江村 成就	900
〃	抗精神病薬投与による脳内 NMDA 受容体 mRNA の変化について	神 経 精 神 医 学 手	高畑 龍一	700
〃	恐慌性障害候補遺伝子の分子生物学的研究	神 経 精 神 医 学 手	稲田 泰之	900
〃	セレクチンを介した細胞間シグナル阻害によるラット移植心の拒絶反応制御に関する研究	胸 部 外 科 学 手	長谷川滋人	1,000
〃	セレクチンを介した細胞間シグナル阻害による筋皮弁の再灌流障害の防止	形 成 外 科 学 師	上田 晃一	1,000
〃	非侵襲的かつ実用的な頭蓋内コンプライアンス測定方法の確立	脳 神 経 外 科 学 手	梶本 宜永	1,100
〃	眼窩床及び副鼻腔での様々の移植物に関する実験的研究	形 成 外 科 学 手	大場伸一郎	1,000
〃	慢性痛におけるプロスタグランジンの作用機構	麻 酔 科 学 手	南 俊明	1,100

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額
奨励(A)	睡眠時呼吸障害(いびき)の身体に与える影響について	耳鼻咽喉科学 助手	貞岡 達也	800
〃	エンドセリンおよび一酸化窒素発生活性化合物の瞳孔・調節におよぼす影響	眼科 助手	清水 一弘	800
〃	視神経炎治療の基礎的研究	眼科 助手	奥 英弘	800
〃	芳香族アミノ酸アミノ基転移酵素の基質認識機構の解明	医化学 助手	末次 由美	1,000
〃	AxCAMs: 軸索性細胞接着分子群の神経回路網形成における役割	医化学 学術	吉原 良浩	1,000
合計	49件			52,800

[備考] 該当者の内1名が転出しているため上記の件数で交付を受けた。

平成7年春季学術講演会開催

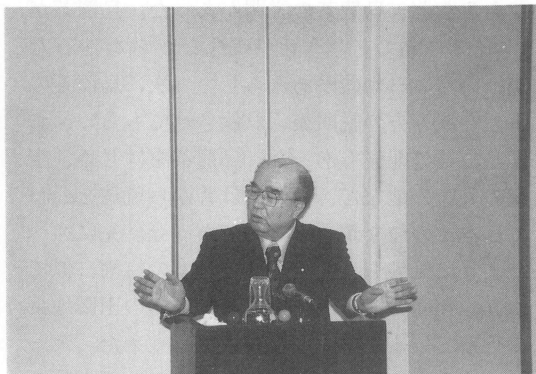
平成7年医学会春季学術講演会が下記のとおり開催されました。

- 日時 平成7年5月31日(水)午後2時
- 場所 臨床第一講堂

特別講演

二つの敗戦国家

元外務大臣 中山 太郎



法医学と遺伝的多型形質

本学法医学教室教授 鈴木 廣一

ミニシンポジウム

アポトーシス

—特にその概念と生物学的意義—

第1解剖学教室教授 大槻 勝紀
心臓におけるアポトーシス

—とくに刺激伝導系の組織学的所見について—

第3内科学教室助手 寺崎 文生
神経細胞死における“Apoptosis”の可能性について

—筋萎縮性側索硬化症を中心に—

第1内科学教室助手 木村 文治
アポトーシス抑制蛋白 bcl-2 の細胞内局在と新しいアポトーシス関連遺伝子の単離への戦略

第1解剖学教室助教授 赤尾 幸博

海外出張記

日中電子顕微鏡学セミナーに参加して

エイズに多大の関心示す

烏龍茶、風景を楽しむ

微生物学教室講師

後藤 俊 幸

平成7年5月1日から5日まで第8回日中電子顕微鏡学セミナーが「材料科学と生命科学における電子顕微鏡学的研究法の開発とその相互交流」をテーマに中国福建省の武夷山市で行われた。開催期間がゴールデンウィークにあたったため、関西空港から上海までの直行便がとれず成田発の便を利用することとなった。上海までは約3時間、そこで国内線に乗り継ぎ、新しくできた武夷山市空港に約1時間でつく。今回は便の都合で上海に一泊後、当市に向かった。武夷山は烏龍（ウーロン）茶の原産地で、写真でよく見る桂林の山々と川の風景にどことなく似たところであった。この町は北京など中国国内からの出席者もはじめてとかで、これから観光開発をすところらしく、ホテル、別荘や土産物屋などが建設中であった。あと半年もすれば、日本からの観光客も多くなるであろう。山水画から流れ出てきたような風光明媚な川の畔にあるホテルで泊まりながらセミナーは行われた。中井教授はこのセミナーの副委員長をしておられるが、都合で今回は行かれなかった。セミナーは医学・生物学部門と材料部門に分かれ、少人数ではあったが、親密で熱心な討議が朝から夕方まで行われた。ただ疑問に思うことは日本人も中国人も漢字を使う国民であるのに、なぜ英語を使わなければならないかということである。日本、中国双方から細胞生物学や病理学的な分野の報告が多くなされたが、われわれの発表は福井助手が中心となって行った研究成果で、ワクチンの材料の一つとなりそうなHIVからコアだけを取り出す方法を紹介した。中国

もエイズ問題には関心を見せており、参加した中国人から多くの質問があった。セミナーの合間に、山登り、竹筏の川下り、朱子学の祖・朱熹を記念した寺や烏龍茶研究所の見学など盛りだくさんな小旅行が用意されていた。あいにくここでは梅雨の季節で、ほとんど毎日が雨であったため、川は増水し、この地の目玉観光である川下りは中止になった。烏龍茶研究所では、烏



写真左から4人目が筆者

龍茶の最高品種は「大紅袍」であったが、現在ではその樹から挿し木した「小紅袍」が最高峰であるなど、烏龍茶の説明があった。烏龍茶が「エイズに効く」という話が残念ながらなかったが、いろいろ効能があるらしい。次に烏龍茶の正しい飲み方の説明後、試飲させてもらい、おまけに茶の即売もあった。烏龍茶をはじめ、空海の入唐の地など、福建省は昔から琉球を介して日本とのつながりも盛んであった。先に述べたように気候も、この時期は日本の梅雨に似ており、今回のセミナーはまるで日本の田園地帯で行っているかのような親近感を覚えた。テーマにあるように日中の相互交流において十分な成果があったように思われる。

伝達式・ご遺骨返納式典

生前献体者への感謝状

生前献体者に対する文部大臣からの感謝状の伝達式が、6月28日（水）午後1時より第2会議室において、また、これに引き続きご遺骨返納式典が午後2時より本学菩提寺光松寺において、ご遺族の方々をお迎えし、本学から学長、事務局長、解剖学教室関係者及び学部学生の参列のもと執り行われました。



医学の散歩道

阪神・淡路大震災救援活動から

神経精神医学教室 教授 堺 俊 明

「大震災のやっと静まった後、屋外に避難した人人は急に人懐かしさを感じ出したらしい。向こう三軒両隣を問はず、親しそうに話したり、互いに子供の守りをしたりする景色は、渡邊町、田端、神明町、一殆ど至る処に見受けられたものである。……ピクニックに集まったかと思ふ位、如何にも楽しさうに打ち解けてゐた。……人人の中にいつにない親しさの湧いてゐるのは兎に角美しい景色だった。僕は永久にあの記憶だけは大事にしておきたいと思つてゐる。…」(中央公論芥川竜之介「大震災雑記」大正12年10月1日発行 より抜粋)

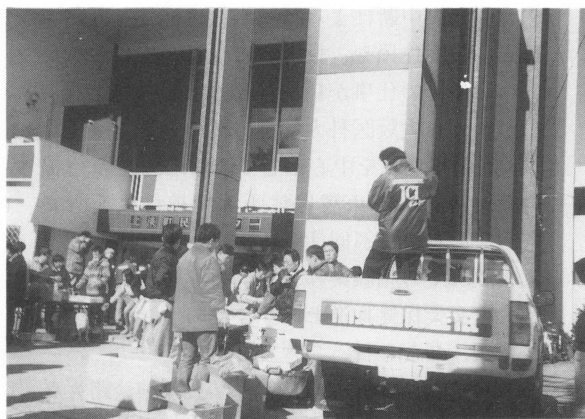
これは関東大震災の直後の被災住民の行動を描写したくだりである。震災により家を失い、家族、親族、知人などを失っているにもかかわらず、いわゆる軽度の躁状態に陥っている。今回の阪神・淡路大震災においても、同じ様な状況を見聞する。これまでお互いに無関心で、挨拶さえしなかった隣近所の人達と、震災を契機に急に親しくなり、声をかけあったり、乏しい水や食料を分かち合ったりしたと聞いている。

必要な長期のこころのケアー

通信・交通寸断が障害に

こころのケア

上に述べたことは被災地でよく見られる現象



で、ちょうどランニング走者の runners high の状況に似ている。マラソン走者はエンドルフィン（内因性モルヒネ様物質）の分泌が高まり、気分的にさわやかで軽い躁状態になる。さらにボランティア NGO (non government organization) として救援に駆けつけた人達にも同じ様な症状がみられた。早朝から夜遅くまで、連日休みなく復興のためかけずり廻り、その結果として突然死や、燃え尽き症候群 burn out syndrome、消耗抑うつが待ち受けている。

そこまでのいかなくても不眠、イライラ、余震に対する不安、心身症的な症状が現れてくる。精神科の救護活動は数カ月またはそれ以上の期間を要するため、絶えず救援者のメンタルヘルスを念頭におき、「交代と休養」を取るようこころすべきことである。なお、働く人のメンタルヘルスケアのチェックリストとしては、

1. 以前より怒りっぽくなった、
2. 同僚や上司とぶつかる、
3. 酒量がふえる（飲まずに寝

られない)、4. 睡眠障害、5. 注意力低下・気分転換できない、6. 同じアイデアしかうかばない、7. 強い責任感、仕事を断れない、8. 無力感・自責感、該当する項目が多ければ、精神科の専門医に受診する必要がある。

災害精神医学 disaster psychiatry

災害というと災害外科というのが常識で、外科医の活動ははなばなしく、マスコミにもてはやされる。しかしその活動は殆ど数日で終わってしまう。これに対し、災害時の精神科救護活動は地味ではあるが、災害直後から数ヶ月ないし数年に渡って行わなければならない。震災直後のパニックな状態、急性ストレス反応(障害)や、服薬の中断による精神疾患の再発、再燃のほか、被災住民や、救援者のこころのケアなど、非常に多くの仕事が精神科医に求められた。

われわれ大阪医科大学神経精神医学教室では
1.新淡路病院を中心として淡路地区での精神科救護活動、2. 東灘保健所・精神科救護所での診療ならびに巡回活動、3. 神戸市立中央児童相談所での相談業務、4. 大阪労働福祉事業団大阪産業保健推進センターでのメンタルヘルス相談、などを行ってきた。

さらに、私は日本精神神経学会阪神淡路大震災特別対策委員会関西現地本部本部長として、全国の精神科医の救護活動に関する情報収集、ならびに救護チームの募集、派遣および調整に関わってきた。その成果を総括し「阪神・淡路大震災における支援活動資料集—こころのケアをめざして—」(精神神経学雑誌第97巻号外454頁)として編集し、発行しておいた。

大阪医科大学附属病院の対応

大阪医科大学附属病院としては、阪神・淡路大震災に際し、多数の受傷者の優先的な受け入れのため、ベッドの確保(100床)などを行っていたが、3月15日までの災害関係の入院患者は55名にすぎなかった。後日わかったことであるが、高槻局(0726)の回線が通じなかったこと、および交通網の寸断のため患者の搬送ができなかったためである。なお大阪医科大学救護班としては、医師、看護婦、薬剤師、事務員などでチームを編成し、御影高等学校および魚崎小学校で救護活動に従事した。

災害医学教育

後日(4月12日)このような救護活動をシンポジウム「阪神・淡路大震災に学ぶ—報告と提言—」において総括し、反省と同時に次の災害に備えたシステム作りを検討した。これらは卒後教育、生涯教育の一環である同時に、卒前教育にも役立つので、入学直後の学生にも早期医学体験学習の一つとして参加させ、感想文を提出させた。

いま、これらの資料は整理中であるが、大阪医科大学雑誌の特集号として近日中に発行の予定である。

啓発活動

なお、近年、医学・医療も地域社会への貢献を強く求められている。今回われわれが体験した災害医療、災害精神医療の体験を、広く地域の人々に伝えておく必要がある。大学で行ったシンポジウム(H.7.4.12)だけでなく、兵庫県淡路島で「津名こころのケアセンター」設立記念フォーラム(H.7.6.24)、さらには公開市民フォーラム「阪神大震災に学ぶ」(h.7.7.7 高槻現代劇場)など地域の啓発活動に協力している。

「阪神大震災に学ぶ」

公開市民フォーラム開く

「阪神大震災に学ぶ」公開市民フォーラム(高槻市、大阪府三島救命救急センター、高槻市医師会および本学主催)が7月7日午後、高槻現代劇場中ホールで開かれた。読売テレビの生々しい記録映像「阪神大震災48時間のドキュメント」放映に続いて、フォーラムでは、本学病院長・美濃 眞先生の「救護派遣チームからの報告」堺 俊明教授の「地域の災害医療の対策に向けて」など、講師7人による現地での実体験および提言が発表された。

常識をはるかに超えた大災害の現場で起きた予期せぬ障害を他山の石とし「災害は繰り返しかつてくる」との前提に立ち、地元高槻に置き替えた医療関係者の提言には、満席の市民らも真剣に耳を傾けていた。

主要会議とその主な議題

平成6年5月1日より平成6年7月16日までの
主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

理事会

(5月16日)

1. 学校法人大阪医科大学相談役の設置に関する規程制定の件
2. 学校法人大阪医科大学顧問の設置に関する規程制定の件

(5月29日)

1. 平成6年度決算承認の件
2. 理事一部選任の件
3. 評議員一部選任の件

(6月13日)

1. 学校法人大阪医科大学相談役の設置に関する規程制定の件
2. 学校法人大阪医科大学顧問の設置に関する規程制定の件
3. 学校法人大阪医科大学参与の設置に関する規程中一部改正の件
4. 大阪医科大学入学検定料の改訂の件

(7月11日)

1. 学校法人大阪医科大学相談役の設置に関する規程制定の件
2. 学校法人大阪医科大学顧問の設置に関する規程制定の件
3. 学校法人大阪医科大学参与の設置に関する規程中一部改正の件
4. 平成8年度主なる事業計画の検討について

評議員会

(5月31日)

1. 平成6年度決算報告の件

教授会

(5月10日)

1. 人事に関する件(学内講師、非常勤講師の任用)
2. 図書館長選出に関する件
3. 教授選考に関する件(生理学第2講座)
4. その他
 - (1) 平成8年度入試に関する委員会委員長の委嘱について
 - (3) 輸血室長の委嘱について

(5月24日)

1. 人事に関する件(助教授、講師、学内講師の任用)
2. 教授選考に関する件(生理学第2講座)

3. 阪神・淡路大震災被災学生の平成7年度学納金減免及び特別奨学金貸与並びに平成7年度各種奨学生(日本育英会、本学、仁泉会)の推薦に関する件

(6月7日)

1. 人事に関する件(生理学第2講座臨時主管教授の委嘱、助教授、学内講師、非常勤講師の任用)
2. 本学名誉教授称号授与に関する件
3. 教授選考に関する件(生理学第2講座)
4. 平成8年度入学試験に関する件
5. その他
 - (1) 阪神・淡路大震災被災新入生の平成7年度学納金減免及び日本育英会奨学生(災害採用)の推薦について

(6月21日)

1. 人事に関する件(学内講師の任用)
2. その他
 - (1) 入学検定料の改訂について
 - (2) 中央手術部長の委嘱について

(7月5日)

1. 人事に関する件(助教授、講師、学内講師の任用)
2. 教授選考に関する件(生理学第2講座)
3. 学則中一部改正に関する件
4. 平成8年度入学試験に関する件
5. その他
 - (1) 保健管理室(仮称)設置準備委員会委員の委嘱について

大学院医学研究科委員会

(5月10日)

1. 研究生の願出に関する件

(5月24日)

1. 平成7年度ティーチング・アシスタントの任用に関する件
2. 大学院専攻主科目の変更にに関する件
3. 平成7年度日本育英会大学院奨学生の推薦に関する件

(6月7日)

1. 学位論文受理に関する件
2. その他
 - (1) 平成7年度ティーチング・アシスタントの任用について

(6月21日)

1. 平成7年度私立大学等経常費補助金特別補助(高度化推進特別経費)に係る計画

書の申請に関する件

(7月5日)

1. 学位論文提出のための語学試験の結果に関する件

主な行事日程表 (7月1日~10月31日)

7月1日から10月31日までの学内における主な行事日程は次のとおりです。

- 7月3日(月) 第1・2学年期末試験(7月13日まで)
- 5日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
- 8日(土) 第6学年第1学期臨床実習終了
- 9日(日) 第6学年夏期休業(8月20日まで)
- 10日(月) 第3・4・5学年第1学期授業終了
- 11日(火) 理事会
第3・4・5学年夏期休業(第3・5学年9月3日まで、第4学年8月27日まで)
- 13日(木) 進学課程期末試験終了
関連病院長会議
- 14日(金) 第1・2学年夏期休業(9月10日まで)
- 19日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
- 20日(木) 看護専門学校授業終了

21日(金) 看護専門学校夏期休業(8月31日まで)

23日(日) 平成7年度第47回西日本医科学学生総合体育大会(8月13日まで)

24日(月) 学位記授与式

8月9日(火) 理事会

21日(月) 第6学年第2学期臨床実習開始

28日(月) 第4学年第2学期授業開始

9月1日(金) 看護専門学校授業開始

4日(月) 第3・第5学年第2学期授業開始

6日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

11日(月) 第1・2学年第2学期授業開始

14日(木) 学位論文受付締切

20日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
看護専門学校第1看護学科第3年生研修旅行(10月6日まで)

10月4日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

8日(日) 大学祭(10月10日まで)

14日(土) 第6学年臨床実習終了

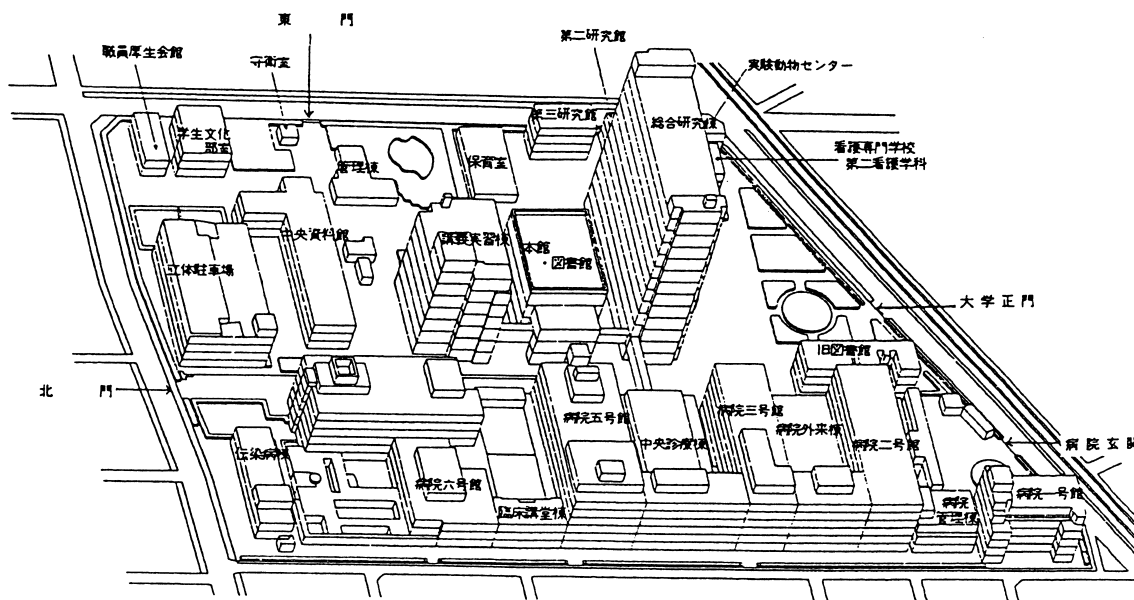
16日(月) 第6学年後期試験開始(8年1月上旬まで)

16日(月) 看護専門学校戴帽式

18日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

21日(土) 解剖慰霊祭

大阪医科大学校内建物配置図



お知らせ

今般、大学構内建物配置図を作成しましたので、ご入用の際は大学総務部庶務課までお申し出下さい。

教室紹介

耳鼻咽喉科学教室

コミュニケーション医学と 頭頸部腫瘍診断

大阪医大耳鼻咽喉科学教室は昭和4年6月に開講された。初代山崎春三教授、第2代武田一雄教授、第3代高橋宏明教授に引き継がれて今日に至っている。現在、高橋教授以下、助教授1名、講師3名、学内講師1名、助手5名、大学院生1名、専攻医17名、研修医7名の計36名が在籍している。この他21名の常勤医を14の関連病院に派遣している。非常勤医のみを派遣している施設も含めると大阪府を中心に合計約30の関連病院がある。

外来診療は一般初診、再診を毎日午前中に行い、専門外来は午後の時間帯を中心に診療している。外来患者数は1993年の統計で初診患者総数5,320名、再来も含めた総患者数は39,694名であった。

入院患者数は平均50名である。最近の年間総手術件数は約500件（但し、外来小手術は除く）で、その主な内訳は、鼻副鼻腔手術（悪性腫瘍も含む）200例、扁桃摘出術40～60例、顕微鏡下喉頭微細手術50例、鼓室形成30例、甲状腺（良性、悪性）30例、耳下腺（良性、悪性）20例、咽頭拡大術（UPPP）20～30例、喉頭摘出術10～20例、咽喉食摘10～20例、舌口腔底10～20例である。最近ではSkull Base Surgeryの導入により、形成外科や脳外科との共同手術が増加している。

研究面では高橋教授の指導する睡眠時呼吸障害および音声に関する研究、牧本助教授による内耳研究、山本講師の指導する病理形態学の3つのグループに大別される。

I) 睡眠時呼吸障害研究。睡眠時無呼吸症候群の重症度分類や形態学的研究を精力的に行っている。一昨年、高橋教授は第94回日本耳鼻咽喉科学会総会で「睡眠時呼吸障害—その診断と治療」と題する宿題報告を行った。



II) 音声研究。正常および病的音声の聴覚印象と音響分析を研究の柱として国内外で業績を重ねてきた。

また、喉摘者の会である高槻喉友会と交流をもち、医学情報の提供を行うなど、無喉頭音声研究の成果が患者の早期社会復帰に役立つよう努力している。

III) 内耳研究。内耳血流をテーマとして研究を進めている。蝸牛血流変化を視標として種々の条件負荷による生理学的変化を観察している。また、誘発耳音響放射を視標とする各種変化の記録、分析も行っている。

IV) 病理形態学。(1) 扁桃の基礎的研究。免疫組織化学的および免疫電顕的手法を用いて形態的、機能的な研究を行っている。(2) 腫瘍の増殖能の研究。DNA 顕微蛍光測光法による核DNA 解析や種々の腫瘍増殖抗原に対する免疫組織化学的検索を行い、腫瘍の細胞動態を評価し、生物学的態度や予後との関係について検討している。最近では、molecular levelで癌関連遺伝子の解析を行っている。(3) 化学予防(Chemoprevention)の研究。実験癌によるin vivo 実験系と、頭頸部癌から樹立した培養細胞を用いたin vitro実験系を用い、化学物質の癌抑制効果について検討してきた。

年間の主な教室行事としては、6月の新入医局員歓迎会、秋の医局旅行、冬には忘年会と山陰地方へのカニ旅行がある。このほか武

田前教授時代から受け継がれたゴルフコンペ OMCENT 会は、現在も年 2～3 回開かれている。また関西医大とのゴルフ対抗戦も毎年熱戦が繰り広げられている。

(文責 坂倉)

平成 6 年度主なる事業報告

平成 6 年度主なる事業報告は、当初の計画とおり実施された。その事業内容は次のとおりである。

A) 大学施設増改築第二期工事 (本館・図書館)

1. 本館・図書館建築工事

標記工事は、平成 5 年 4 月 12 日着工し、平成 6 年 5 月 30 日完工した。

2. 本館・図書館工事竣工後整備工事

イ) 本館・図書館備品・什器等整備

(1) 図書館関係機器整備

(平成 6 年 8 月 10 日)

(2) 食堂関係機器整備

(平成 6 年 6 月 15 日)

(3) 4 階ラウンジ他共同面機器整備

(平成 6 年 6 月 15 日)

ロ) 図書館他移転関係

事務室関係は、平成 6 年 6 月 25 日、図書館関係は同年 8 月 31 日に夫々移転作業を完了した。

ハ) 図書館図書紛失予防システム他機器備品 (平成 6 年 9 月 1 日リース契約)

ニ) 蔵書データ入力

平成 6 年 7 月 18 日着手、同年 8 月 31 日完了した。

ホ) 本館、図書館電話設備工事

平成 6 年 6 月 5 日着手、同年 6 月 27 日完工した。

ヘ) 建物周辺外構工事他整備

平成 6 年 6 月 2 日着手、同年 6 月 25 日完工した。

B) 研究診療設備拡充事業

1. 磁気共鳴による生体内代謝、動態、機能解析装置 1 式

標記装置は、平成 6 年度文部省私立学校施設整備費補助金 (私立大学、大学院等教育研究装置施設整備費) を受け、平成 7 年

3 月 6 日病院放射線科に設置した。

2. 高速生体反応光解析システム 1 式

標記装置は、平成 6 年度文部省私立大学研究設備整備費補助金 (私立大学研究設備等整備費) を受け、平成 7 年 3 月 6 日機器共同利用センターに設置した。

3. 化学自動分析装置 1 式を、平成 6 年 5 月 17 日病院中央検査部に設置した。

4. 放射線情報管理システムは、平成 6 年 12 月 1 日リース契約 (5 年) を締結し、病院放射線科外来に設置した。

5. ジェット洗浄器は、平成 6 年 8 月 1 日リース契約 (5 年) を締結し、看護部サブライに設置した。

C) 教育実習用機器整備事業

尿中代謝物測定装置の他実習用機器 28 点を講義実習棟に設置した。

D) 施設改修整備事業

1. 附属病院中央監視盤改修工事 (平成 6 年 10 月 30 日完工)

2. 附属病院ターボ冷凍機改修工事 (平成 6 年 9 月 30 日完工)

附・属・病・院

院内消防防火設置説明会

今年度の消防訓練計画にもとづき、防災訓練の一貫として、附属病院に設置されている消防防災設備全般にわたる説明会が下記のとおり実施されました。

記

- ・スライド映写と設備資料に依る説明 (40分)
- ・病棟における現地設備機器説明 (20分)

日 時	対象職場	開催場所	現地説明
6月20日 (火) 13:30~ 14:30	1号館 2号館 3号館 外来棟	管理棟会議室 (管理棟3階)	13病棟 24病棟 34病棟 外来ホール
6月21日 (水) 13:30~ 14:30	5号館・サブライ 6号館 保育室	管理棟会議室 (管理棟3階)	54病棟 62病棟 64病棟 保育室
6月24日 (土) 10:00~ 11:00	手術室・ICU	手術室	手術室

日本看護協会協会長表彰

5月24日東京の国立代々木競技場第一体育館で開催された協会総会のセレモニーで、病院看護部長勢川瑠美子氏が協会の発展に寄与したとして、標記の表彰を受けられました。

看護の日 「ふれあい看護体験 '95」

看護部副部長 神谷美佐子

1990年に看護の日が制定され、今年で5年目を迎えました。各都道府県看護協会に於いて、病院の中で看護婦の仕事を実際に体験し、患者とのふれあいを通して「看護」への理解と関心を深めてもらう目的で、毎年「ふれあい看護体験」を企画、各病院毎に応募者を受け入れ実施しています。

当大学病院においても、5月10日（水）、10名の方々が看護体験を終了されました。対象者には将来看護婦を目指す高校生だけでなく、大学生、会社員、主婦の方と幅広くなってきました。特に、今年の参加動機は去る1月の阪神・淡路大震災が契機となり、「私にも何かができるのでは」、「やってみよう」という前向きの気持ちで参加されたことがとても印象的でした。

当日は、研修室にて各自が自己紹介の後、勢川看護部長より大学病院の紹介と看護部の看護目標について説明がされました。話の最後に相手に伝える言葉として、I CARE YOU EVERY DAY ー私はあなたのことをいつも気にかけていますーと説明されたことに関心を寄せて聴いていました。その後、受け入れ病棟の婦長案内のもと、各2名ずつに分かれ看護体験が始まり、真剣な態度で看護婦と一緒に清拭、洗髪、食事介助、入浴介助等に取り組みました。体験終了後の意見交換の場では、短時間の体験を通し緊張の中にも各自が確かな手応えを感じられたようだ。その時の喜びの笑顔が印象的であり、同時に看護に対する関心の深さが高まったように実感いたしました。

体験終了後お礼の手紙の一文を紹介しますと「看護体験の次の日より、いつもの会社員の私に戻って仕事に向かっていますが、看護体験の日を境に仕事に対する私の気持ちの変化がありました。今は新しい仕事を始めるような気持ちで仕事に向かっています。この気持ちをこれからも大切にしたいと思っています」このように、患者さんと“ふれあい”ことは、ナースだけでなく、この看護体験をエネルギー源にして、各々の仕事にも活かされていることがわかりました。「ふれあい看護体験」を通して、病院と地域の方々が交流し、医療と看護のあり方をより正しく理解して頂くことが出来ればと願っております。

平成6年度附属病院臨床研修医

(78名……学内64名、学外14名)

平成7年5月1日現在の各科の臨床研修医数は以下のとおりです。尚、昨年度は82名。

第 1	内 科 8:	眼	科 3
第 2	内 科 8:	耳 鼻 咽 喉	科 5
第 3	内 科 6:	皮 膚	科 2
精 神 神 経	科 10:	泌 尿 器	科 4
一 般・消化器	外科 2:	放 射 線	科 1
胸 部 外 科	1:	麻 醉	科 2
脳 神 経 外 科	5:	歯 科・口 腔 外 科	2
整 形 外 科	10:	中 央 検 査 部	0
小 児 科	5:	形 成 外 科	1
産 婦 人 科			3

編 集 後 記

◆藤本新学長が21世紀の医学・医療新時代に向け就任の抱負を述べられた。さきに総合研究棟、本館・図書館が完成。ハード、ソフト両面にわたるこれからの充実を、期して待ちたい。
◆阪神・淡路大震災で救援チームが活躍。神戸市在住の編集子からも感謝◆「読める学報」が毎号の目標。学内諸賢からの情報、アイデア提供を願っている。



紫陽花（看護専門学校 第二看護学科横）

今年も紫陽花が美しく咲いた。医を志すからといって「この花は解熱、葉はおこりの治療薬」などと野暮はいうまい。花は四季豊かな日本の“心”だから。研究に疲れた時などちょっとお目を拝借。心を癒すのは、花にしくはない。

大阪医科大学学報	第25号
発行年月日	平成7年7月16日
発行	学校法人 大阪医科大学
発行責任者	事務局長 多田 數 義
編集・発行	総務部 庶務課